



研修プログラムを体験された方の声

PSF 研修

この研修で学んだ印象的な考え方は「ご本人には意思がある、ということが前提」「支援者や保護者が考える“最善の利益”を押し付けない」「今と未来の話をする」「夢や希望は大きく考える」等です。

このような考え方を活用した面談や実践を行い、ご本人が希望に向かって大きく動いたケースもありました。

支援者が自信を持ってご本人の可能性を信じていることができるこの支援プログラムが、今後たくさんの方の広がりを見せてくれることを期待しています。

相談支援専門員
大森 匠さん



研修を受けて一番感じた事は、深い安心感に包まれるという感覚でした。

自分の心からの希望を発見し、表出することが許される存在である、という、深い自己肯定の思いです。

この研修では、具体的にユニークな面談技術を用いてご本人の潜在的な希望を一気に表出させます。

自由な表現が十分に保証された会話は実に建設的で、本人が支援者を引っ張っていくパワーを感じます。

ご本人の大きな力を発見するためにも、実践する価値のある技術だと感じています。

相談支援専門員
滝瀬 満里子さん



Talking Mats 研修

あんなに丁寧に一つずつ、聞いてもらえた経験がなかったので、答える時に「あっ考えてなかった」とか、ちょっと戸惑うことが多かったのですが、今関わっている子どもたちにも普段から自分の欲求とか考えとか感情とか言えるような関わりができたらいいなと思いました。

放課後支援員
中島 直美さん



初対面の人たちとワークショップをするのは緊張したんですけど、気持ちが同じ方向を向いていて楽しいひと時でした。

初級コースでしたので、トーキングマットを使いこなす自信はまだなんですけれども、階段の1段目に足をかけたような嬉しい気持ちになりました。

県立学校教職員
和田 佐栄さん



講演・研修講師のご依頼、お問い合わせはこちら

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION



一般社団法人 日本意思決定支援ネットワーク
SDM-Japan 運営事務局

ホームページは

SDM-Japan 
<https://sdm-japan.net/>

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学 名川 勝 研究室気付
TEL : 050 - 5534 - 4004
メール : info@sdm-japan.net

ぜひ、ごらんください！

各種 SNS



facebook
www.facebook.com/sdmjapan/



Twitter
[@JapanSdm](https://twitter.com/JapanSdm)



instagram
[@sdm_japan](https://www.instagram.com/sdm_japan)



一般社団法人

日本意思決定支援ネットワーク SDM-Japan



SDM-Japanは、障害のあるなしにかかわらず、
誰もが自信と誇りをもって、自分の思いを述べ、
心からの希望に基づいて意思決定することができる
社会を目指しています。

もしも自分が障害をもっていたとしても…

誰かに決められるのではなく、
私らしい意思決定に基づいて
自分の望む人生を最期まで全うしたい。



意思決定支援についての 講演会・研修プログラムのご提供

「自分のことは自分で決める」という権利を守ることの大切さや
目の前の人の「心からの希望」を引き出すための
ファシリテーションスキル（会話のスキル）などを学ぶ、
体験型のワークショップです。

皆様のご希望に合った研修プログラムをご提案します。

- ・福祉専門職向け、障害を持つ方のご家族等のスキルアップ研修（1～2日間コース）
- ・入門編ワークショップ（半日コース）
- ・意思決定支援ガイドラインについての研修など

“揺れるところを見える化する”意思決定支援ツール 「Talking Mats（トーキングマット）」のご紹介

意思決定支援の場面では、ご本人の選好や価値観を知ろうとする姿勢がとても重要です。
スコットランドで開発されたトーキングマットは、カードのやりとりを通じて、その人の好きなことや嫌いなこと、その人にとって重要なことやそうでないことなどを引き出すことが可能です。
イギリスで研修を修了した日本人初の認定トレーナー率いるトーキングマットチームが、トーキングマットの効果的な使い方を学ぶための研修やカードの購入方法等について情報提供をいたします。
皆様のご希望に合った研修プログラムをご提案します。

トーキングマット日本上陸プロジェクトの最新情報はこちらをチェック！
<https://readyfor.jp/projects/talkingmats-children>



揺れるところを
見える化する
Talking Mats
(商標登録番号 6296641・6296645)



WHO（世界保健機関）のICF（国際生活機能分類）モデルにしたがって、自宅での過ごし方、外出先での過ごし方、セルフケア、仕事、お金の使い方、医療に関することなど、様々なテーマが設けられています。大人用のカードだけでなく、子ども用のカードも用意されています。

意思決定支援についての 3 コンサルティング （ご相談）

SDM-Japanには、障害がある方への支援や意思決定支援の専門家がいます。
（成年後見人、相談支援専門員、臨床心理士、障害に関する教育・研究者、弁護士、発達障害の親の会メンバーなど）
私たちがみなさまのお力になれば幸いです。

現在、私たちは障害のある人などが、いつでも、どこでも、どんな場面でも
意思が尊重され、自ら意思決定を行う機会が保障されるような
環境をつくるための体制をつくる活動を行っています。

私たちの活動は、今後、日本における障害のある人などへの支援のあり方、
ひいては地域社会の人たちのかかわり方を変えていく可能性を持つものと考えています。

・「あなたのことを知りたい」を求め続ける。

人が人を支援するとき「この人は何をしてほしいんだろう、どうしたら求めに応えた支援ができるのだろう」と思いながら関わることを考えれば、意思決定支援とはとても基本的な取り組みなのと言えます。そして支援するよりむしろ「あなたのことを知りたい」と求める姿勢が先に立つのではないのでしょうか。実際にその人の思いを理解するのは容易でなく、また意思決定支援の言葉が混乱している今だからこそ、その基本を確認し、日々関わっていくためのスキルを紹介・普及していくことが私たちの活動です。その人のwishをもっと知るために。

日本意思決定支援ネットワーク 代表理事 名川 勝

